

2024年度業績一覽

A01 班：モノとヒトの相互構築史： マテリアマインドの実証的・理論的研究（物質と心班）

論文

- Takakura, J. (2024). Human population dynamics and the emergence of microblade technology in Northeast Asia during the Upper Palaeolithic: A current view. In: *The Prehistory of Human Migration - Human Expansion, Resource Use, and Mortuary Practice in Maritime Asia*, edited by R. Ono and A. Pawlik, IntechOpen, <https://doi.org/10.5772/intechopen.114212>
- 石村智. (2024). 「クラ交易と貝」『貝の文化（海洋考古学会第14回研究会資料集）』pp.13-18, 海洋考古学会・岡山大学考古学研究室.
- 石村智. (2024). 「太平洋諸島からの視点」『考古学研究会70周年記念誌 考古学の輪郭』pp.72-73, 考古学研究会.
- 上野祥史. (2024). 「記録メディアとしての3Dデータ」『REKIHAKU』13, pp.43-48, 国立歴史民俗博物館.
- 高倉純. (2024). 「旧石器時代」『北海道考古学』60, pp.17-26.
- 高倉純. (2024). 「旧石器時代—研究の展望—」『北海道考古学会60周年記念回顧と展望 資料集』pp.7-13, 北海道考古学会.
- 高倉純. (2024). 「極北・東北アジア世界からの視点」『考古学研究会70周年記念誌 考古学の輪郭』pp.80-81, 考古学研究会.
- 長崎潤一・高倉純・北村成世・阿部嵩士. (2025). 「北海道蘭越町立川1遺跡第4次・5次調査概報」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』70, pp.525-554.
- 寺前直人. (2025). 「弥生時代中期から後期の社会構造—継承と断絶、あるいは拒絶—」『播磨から弥生社会を問いなおす』pp.89-105, 第23回播磨考古学研究会集録集.
- 寺前直人. (2024). 「高地性集落論の再構築 鳥居龍蔵、八幡一郎と森本六爾の比較をもとに」『駒澤考古』49, pp.17-26.
- 寺前直人. (2024). 「弥生時代における考古学と文献史」『考古学研究会70周年記念誌 考古学の輪郭』pp.116-117, 考古学研究会.
- 中園聡. (2025). 「書評 春成秀爾著『始原のヴィーナス』」『考古学研究』71(4), pp.89-91.
- 中園聡・平川ひろみ・太郎良真妃・遠矢大士. (2025).

- 「神戸市住吉宮町遺跡および周辺地域出土埴輪・土器類の胎土分析」『住吉宮町遺跡第57次発掘調査報告書—大阪湾北岸域における埋没古墳群の調査—』pp.91-106, 神戸市.
- 福永将大. (2024). 「アミダ遺跡の再検討—縄文時代後期後半の九州における「大規模集落 遺跡」出現に関する一考察—」『日本考古学』58, pp.53-69.
- 福永将大. (2024). 「列島西部日本海側にみる縄文時代後半期の交流とその変動」『地域と交流の考古学 日本考古学協会2024年度島根大会研究発表資料集』pp.57-66, 日本考古学協会2024年度島根大会実行委員会.
- 福永将大. (2025). 「西北部九州沿岸における縄文貝塚研究試論」『立命館大学考古学研究報告2 Digging Up 矢野健一先生退職記念論文集』pp.121-128, 立命館大学考古学・文化遺産専攻.
- 福永将大. (2025). 「福岡県における縄文時代後期の小池原上層式～鐘崎式及び併行期の土器群の様相」『第33回九州縄文研究会福岡大会 鐘崎式土器研究の現在地 発表要旨・資料集』pp.105-106, 九州縄文研究会.
- 福永将大・伊藤泰弘. (2025). 「天神山貝塚・山鹿貝塚から出土した貝類資料」『九州大学総合研究博物館研究報告』22, pp.129-139.
- 松本雄一. (2024). 「アンデスの神殿をめぐる研究とその理論的視座」『文化人類学』89(2), pp.217-229.

書籍

- 上野祥史 (編). (2025). 『REKIHAKU特集 3Dからみえる研究』14, 国立歴史民俗博物館.
- 棚橋訓・須藤健一・山本真鳥・飯高伸五・風間計博・窪田幸子・黒崎岳大・丹羽典生・深山直子・石村智・石森大知・梅崎昌裕・小野林太郎・桑原牧子・橋本和也・古澤拓郎・山口徹 (編). (2024). 『オセアニア文化辞典』丸善出版.
- 高倉純. (2025). 「狩猟採集民の学習行動と文化伝達—旧石器時代の考古資料からの理解—」西秋良宏・野林厚志 (編著) 『パレオアジア新人文化の形成 考古学・文化人類学からのアプローチ』pp.179-211, 新泉社.
- 寺前直人・設楽博己 (編著). (2024). 『Q&Aで読む弥生時代入門』吉川弘文館.
- 松本雄一. (2024). 『アンデス文明ガイドブック』新泉社.

研究発表・講演

- Cavero Palomino, Y. and Y. Matsumoto. (2024). Excavaciones arqueológicas en el centro ceremonial de Chupas, Ayacucho: primera temporada de campo 2023. *XI Congreso Nacional de Arqueología*, Lambayeque, 2024/11/7.
- Cavero Palomino, Y. and Y. Matsumoto. (2024). Evidencias del arte figurativo Chavín en el centro ceremonial de Campanayuc Rumi, Ayacucho. *III Seminario Internacional de Estudios sobre Arte Prehispánico en México y Perú: Diálogos Latinoamericanos: Aprendizajes en los Estudios sobre Historia y Arte Indígena*, Museo Nacional de la Cultura Peruana, 2024/10/29.
- Matsumoto, Y. and Y. Cavero Palomino. (2024). After Monumentality: The Late Paracas Component at the Site of Campanayuc Rumi in the Peruvian South-Central Highlands. *The 89th Annual Meeting of Society for American Archaeology*, New Orleans, 2024/4/20.
- Takakura, J. (2024). Revisiting the analysis of lithic refitted artefacts at the Upper Palaeolithic sites in Japan: its potential and challenges. *The 30th Annual Meeting of the European Association of Archaeologists*, Sapienza University of Roma, Italy, 2024/8/28-31.
- Takakura, J. and J. Hashizume (2024). Exploring the spatial-temporal variability of bifacial point technology in the terminal Pleistocene of northern Japan and its implications. *The 30th Annual Meeting of the European Association of Archaeologists*, Sapienza University of Roma, Italy, 2024/8/28-31.
- 東豊土・加藤孝幸・岡村聡・高倉純. (2024). 「神居古渾帯・糠平岩体または沙流川岩体におけるロジン岩と接する蛇紋岩起源緑泥石岩の岩石学的特徴」日本地質学会第131年学術大会, 山形大学, 2024/9/8-10.
- 石村智. (2024). 「クラ交易と貝」海洋考古学会第14回研究会, 岡山大学, 2024/9/28.
- 石村智. (2024). 「芸能とキネシオロジー—実演者の身体的運動の解析について—」学術変革領域研究 (A) マテリアマインド: 物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/11.
- 石村智. (2024). 「寒いポリネシア」をめぐって」日本オセアニア学会第42回研究大会・総会, 大鰐温泉「鰐come」, 2025/3/25.
- 上野祥史. (2023). 「古墳時代の象徴的造形と身体感覚」学術変革領域研究 (A) マテリアマインド: 物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, オンライン・ポスター発表, 2025/1/11-12.
- 北村成世・高倉純・長崎潤一・Alexandr Ulanov・阿部高士・鯉沼来人. (2024). 「蘭越町立川1遺跡の石刃核」第22回日本旧石器学会大会, 岡山理科大学, 2024/6/22-23.
- 鯉沼来人・長崎潤一・北村成世・高倉純. (2024). 「北海道立川1遺跡」第38回東北日本の旧石器文化を語る会, 東北大学, 2024/12/21-22.
- 下小牧潤・中園聡・平川ひろみ. (2025). 「「雪窓院跡」関連資料の調査—鹿兒島県日置市伊集院中学校内転用石材の発見と基礎的検討—」日本情報考古学会第50回大会, 高千穂大学杉並キャンパス, 2025/3/29-30.
- 高倉純. (2024). 「旧石器時代—研究の展望—」北海道考古学会2024年度研究大会, 北海道大学, 2024/6/1.
- 高倉純. (2025). 「ユーラシアにおける押圧剥離法の出現と拡散過程の研究 (1)」学術変革領域研究 (A) マテリアマインド: 物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 2025/1/11-12.
- 高倉純・坂梨夏代・越田賢一郎・渡井瞳・北村成世・長崎潤一. (2024). 「北海道八雲町大関遺跡の尖頭石器群」第22回日本旧石器学会大会, 岡山理科大学, 2024/6/22-23.
- 寺前直人. (2024). 「日本1-5世紀の高地性集落の特徴—日本列島における高地性集落研究史—」『宝城鳥城遺里跡の価値と活用』国際学術大会, 大韓民国全羅南道宝城郡, 2024/12/12.
- 時津裕子. (2025). 「実験心理学的アプローチによる物質文化研究の可能性: 視線計測を中心として」学術変革領域研究 (A) マテリアマインド: 物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/11.
- 時津裕子. (2025). 「考古学非経験者による遺物観察時の視線比較」日本情報考古学会第50回大会, 高千穂大学杉並キャンパス, 2025/3/29.
- 中園聡. (2024). 「3D考古学の実践と深化—悉皆的3D発掘・土器の新しい見方—」公立小松大学次世代考古学研究センター・セミナーシリーズ第3回「3D考古学の最前線」, 公立小松大学中央キャンパス, 2024/7/6.
- 中園聡. (2025). 「3D時代の考古学を考える—型式・様式・編年、調査研究、枠組み—」宮崎考古学会2024年度研究会, 都城市中央公民館, 2025/2/23.
- 中園聡・平川ひろみ・太郎良真妃. (2025). 「初期ヒト形人工物の基礎的検討」学術変革領域研究 (A) マテリアマインド: 物心共創人類史学の構築 第2回全体会議,

- 岡山国際交流センター, 2025/1/11.
- 中園聡・平川ひろみ・太郎良真妃・遠矢大士. (2025). 「悉皆的3D発掘」と鹿児島県三島村黒島大里遺跡の調査におけるデジタル記録の考え方」日本情報考古学会第50回大会, 高千穂大学杉並キャンパス, 2025/3/29-30.
- 平川ひろみ・中園聡. (2025). 「土器製作者の身体と動作—経緯と視角—」学術変革領域研究 (A) マテリアマインド：物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/11.
- 平川ひろみ・太郎良真妃・中園聡. (2025). 「地域の埋もれた文化の『再発見』とデジタル記録—鹿児島県三島村黒島大里地区の力石と木製水中眼鏡—」日本情報考古学会第50回大会, 高千穂大学杉並キャンパス, 2025/3/29-30.
- 平川ひろみ・中園聡. (2025). 「土器タタキ痕の可視化による製作者の身体動作」日本情報考古学会第50回大会, 高千穂大学杉並キャンパス, 2025/3/29-30.
- 福永将大. (2024). 「佐賀県唐津市徳蔵谷遺跡出土の韓半島系土器—縄文時代後期初頭における北部九州と韓半島南部の交流—」第15回九州考古学会・嶺南考古学会合同考古学大会, 福岡, 2024/8/24.
- 福永将大. (2024). 「西日本の縄文後期中葉」松戸市立博物館令和6年度企画展記念シンポジウム「異形土器と注口土器からみた縄文後期社会の変容」, 千葉, 2024/10/5.
- 福永将大. (2024). 「列島西部日本海側にみる縄文時代後半期の交流とその変動」日本考古学協会2024年度島根大会, 島根, 2024/10/20.
- 福永将大. (2024). 「九州・韓半島出土の篋削文土器について—縄文時代後期初頭の土器様式構造—」2024年度九州史学会大会, 福岡, 2024/12/15.
- 福永将大. (2025). 「紀元前二千年紀前後の日本列島における文化的・社会的画期とその背景」学術変革領域研究 (A) 日本列島域における先史人類史の統合生物考古学的研究—令和の考古学改新—第2回かささぎmeeting, 岡山国際交流センター, 2025/2/22.
- 松本直子. (2025). 「「出ユーラシア」から「マテリアマインド」へ—統合生物考古学との接点—」学術変革領域研究 (A) 日本列島域における先史人類史の統合生物考古学的研究—令和の考古学改新—第2回かささぎmeeting, 岡山国際交流センター, 2025/2/22.
- 松本直子. (2025). 「人類史の視点から」日本学術会議公開シンポジウム「人間にとって学習とは何か」東京大学+オンライン, 2025/3/20.
- 松本雄一. (2024). 「アンデス形成期における人面表象の変容—ペルー中央高地南部カンパナユック・ルミ遺跡の事例から—」学術変革領域研究 (A) マテリアマインド：物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, オンライン・ポスター発表, 2025/01/11-12.
- 山岡拓也・新美倫子・石原与四郎・橋詰潤・井口智博・高倉純. (2024). 「静岡県行者穴遺跡の発掘調査」第22回日本旧石器学会大会, 岡山理科大学, 2024/6/22-23.
- 山岡拓也・高倉純. (2025). 「台形様石器の利用をめぐる人間行動の復元：静岡県沼津市土手上遺跡から出土した台形様石器の多角的な研究」第42回考古学研究会東海例会, オンライン, 2025/3/30.

アウトリーチ他

- 石村智・前原恵美. (2024). 「自由視点映像システムによる日本舞踊の試演記録」東京文化財研究所ウェブサイト.
<https://www.tobunken.go.jp/materials/katudo/2385231.html>
- 寺前直人. (2024). 「東から見た銅鐸の国」第7回とよはしシンポジウム「銅鐸の国と弥生時代の社会」, 愛知県豊橋市, 2024/12/7.
- 寺前直人. (2024). 「多摩川流域からみた縄文・弥生南関東ヤジリ論—チャートと黒曜石、そして有機質素材をめぐる—」大田区立郷土博物館令和6年度特別展開連講演会第2回, 東京都大田区, 2024/10/26.
- 寺前直人. (2024). 「青銅器なき世界からみた弥生社会像」企画展「荒神谷発見！」関連講座, 島根県出雲市, 2024/8/3.
- 中園聡. (2024). 「伊集院中学校 学校碑が最古級の石橋 鹿児島県」News+ おやっと!, KKB鹿児島放送, 2024/4/10.
<https://news.yahoo.co.jp/articles/6d1fe4d66b9979358c97a73605ee369e4b7ccae0>
- 中園聡. (2024). 「沖縄以外で最古級の「石橋」のひとつか 日置市が発表」. NHK情報WAVEかごしま, NHK日本放送協会, 2024/4/10.
<https://www3.nhk.or.jp/lnews/kagoshima/20250410/5050030348.html>
- 中園聡. (2024). 「戦国時代の石橋、鹿児島県の中学校で石碑になっていた…日本本土最古級か? 「天正八年」刻銘・人の往来時の傷」読売新聞, 2024/4/10.

<https://www.yomiuri.co.jp/local/kyushu/news/20250410-OYTNT50016/>

中園聡. (2024). 「中学校の花壇から出た… 「国内最古級の石橋」 側面に天正8 (1580) 年の刻銘 日置市伊集院」 南日本新聞, 2024/4/10.

<https://373news.com/news/local/detail/212027/>

中園聡. (2024). 「中学校の石碑を調べたら本土最古の石橋だった 建造は「本能寺の変」2年前 鹿児島」 MBC ニュースナウ, MBC南日本放送, 2024/4/10.

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/mbc/1847447?display=1>

中園聡. (2025). 「ほこらに刻まれた判読不明の文字… 3D計測したら神社の棟札の記述と一致 技術力を誇示したかった? 160年前の陶工たち」 南日本新聞, 2024/5/6.

https://373news.com/_news/storyid/194162/

福永将大. (2025). 「縄文文化の多様性とその背景に迫る! ~なぜ縄文文化は“東高西低”に見えるのか? ~」 第106回サイエンスカフェ@ふくおか, 福岡, 2025/3/28.

松本直子. (2024). 「縄文時代、狩りをしたのは男性だけ? 博物館が陥りやすい落とし穴」 朝日新聞, 2024/11/1.

<https://digital.asahi.com/articles/ASSB03CHGSB00IPE00RM.html?ptoken=01JRM8RHE417MG2XEWNJ3R9Z4N>

松本直子. (2025). 「ジェンダー考古学—研究の最前線と展示の課題—」 令和6年度岡山県埋蔵文化財担当職員研修会, 岡山県生涯学習センター, 2025/01/17.

A02 班：環境とヒトの相互構築史： 汎太平洋の比較研究による文理統合的研究（人間と環境班）

論文

Hongo, C., Asami, R., and Yamano, H. (2025). Initiation and internal structure of temperate coral reef community over the past 7.3 kyr in Kushimoto, mainland of Japan. *Marine Geology*, 481, 107499.

今津勝紀. (2024). 「古代吉備の開発と渡来民」『歴史学研究』1049, pp.2-14.

今津勝紀. (2024). 「災害と人間の暮らし」『文明動態学』3, pp.55-59.

今津勝紀. (2024). 「古墳時代中後期の吉備の人口変動」『季刊考古学』168, pp.50-52.

今津勝紀. (2024). 「日本古代の飢疫と気象」『季刊考古学』168, pp.81~84.

荻谷愛彦. (2025). 「ペルー南部のアルティプラノを開析する巨大岩石なだれ」『専修人文論集』116, pp.215-221.

小林誠. (2024). 「言葉果つるその先に——漫画『南の島の異邦人』を読む」『コミュニケーション科学』60, pp.103-123.

小林誠. (2024). 「暮らしと海」『会報ツバル』62, pp.4-6.

小林誠. (2024). 「環礁の暮らしと気候変動——ツバルの景観から考える」『地理月報』573, pp.6-9.

荘司一歩・鶴見英成. (2024). 「廃棄物の物質性——神殿の発生と反復的実践の原動力を考える」『文化人類学』88(2), pp.230-249.

深山直子. (2024). 「ニュージーランドで考える『先住民族と法』」『国際人権』2024年報第35, pp.20-23.

深山直子. (2024). 「マオリ研究の変遷からみたこれからの教育の役割」(岩佐奈々子「対話:『先住民族の包摂』と『先住民族化』の間で——アオテアロア/ニュージーランド・マオリとアイヌの人々の「声」を聞くために〈報告:2023年11月オンライン・シンポジウムから〉)『北海道大学大学院教育学研究院紀要』144, pp.65-91.

武智泰史・中村大輔・鈴木茂之・ライアン ジョセフ・上楯武・長原正人・吉江雄太・池端慶・木村理・服部亮一. (2025). 「吉備製鉄遺跡周辺地域の磁鉄鉱ざくろ石スカルン鉄鉱石の鉱物学的・地球化学的特徴」『文明動態学』4, pp.19-52.

山口徹. (2024). 「出会いと絡み合いのフィールドワー

ク」『図書』912, pp.26-29, 岩波書店.

山口徹, 他. (2024). 「オープンサイエンス時代におけるデジタル知の深化に向けて——研究データの共有と公開を考える」『DMC紀要』11, pp. 2-71, 慶應義塾大学DMC研究所.

山本睦・大谷博則・O.アリアス・G.ビジェガス・K.エスピリトゥ・鶴見英成. (2024). 「ペルー、インガタンボ遺跡におけるLiDAR 測量とその成果」『古代アメリカ』27, pp.1-10.

渡部森哉. (2024). 「古代アンデスの木製コップ」『月刊みんぱく』48(6), pp.8-9.

渡部森哉. (2024). 「中南米大陸の考古学からの視点」『考古学研究会70周年記念誌 考古学の輪郭』pp.92-93, 考古学研究会.

渡部森哉. (2025). 「古代アンデス文明の神殿と国家」『人類学研究所研究論集』14, pp.141-166.

書籍

Yamaguchi, T. (ed.) (2024) *Report of Multi-disciplinary Scientific Research Project, 2017-2023: Archaeological and Anthropological Research of Diachronic Dynamics between Pit-Agriculture and Meteorological Disasters of Pukapuka Atoll in the Northern Cook Islands*. Department of Archaeology and Anthropology, Keio University.

今津勝紀. (2024). 「古代吉備のカヤをめぐる」本郷真紹 (監修), 山本崇・毛利憲一 (編)『日本古代の国家・王権と宗教』pp.33-61, 法蔵館.

今津勝紀. (2024). 「古代の災害と社会」川尻秋生 (編)『シリーズ: 古代史をひらく II——天変地異と病』pp.17-62, 岩波書店.

小林誠. (2024). 「ツバル語」, 「集会 (ツバル)」, 「マナとタブ」, 「水泳文化」, 「国情紹介 気候の変化を生きる」オセアニア文化事典編集委員会 (編)『オセアニア文化事典』pp.84-85, 406-407, 428-429, 552-553, 690-691, 丸善出版.

荘司一歩. (2024). 『マウンド・ビルディングの考古学: 先史アンデスにおけるモニュメントのはじまりを問い直す』臨川書店.

棚橋訓 (編集委員長), 深山直子 (編集幹事), 山口徹 (編集委員), オセアニア文化事典編集委員会 (編). (2024).

『オセアニア文化事典』丸善出版.

棚橋訓. (2024). 「人新世」, 「3. 言葉: 概説」, 「ピジン言語」, 「伝統を競う(クック諸島)」, 「セーリング(ニュージーランド)」, 「サーフィン」, 「あやとり」, 「棒投げ/槍投げ」, 「格闘技」, 「クック諸島—マオリの国をつくる」, オセアニア文化事典編集委員会(編)『オセアニア文化事典』pp.74-75, 78-79, 114-115, 538-539, 550-551, 554-555, 556-557, 558-559, 560-561, 684-685, 丸善出版.

深山直子. (2024). 「マオリ語」, 「環境運動(ニュージーランド)」, 「9. 生活文化: 概説」, 「都市のマラエ(ニュージーランド)」, 「マヌカハニー(ニュージーランド)」, 「マオリの彫刻(ニュージーランド)」, 「ネットボール」, オセアニア文化事典編集委員会(編)『オセアニア文化事典』pp.88-89, 356-357, 410-411, 444-445, 470-471, 546-547, 丸善出版.

山口徹. (2024). 「2. 自然: 概説」, 「熱帯サイクロン」, 「旅行カバンの生物相」, 「環礁島への定着」, 「マーシャル諸島共和国」, オセアニア文化事典編集委員会(編)『オセアニア文化事典』pp.34-35, 62-63, 72-73, 242-243, 706-707, 丸善出版.

山野博哉. (2024). 「相対的の海水準変動」, 「サンゴ礁」, オセアニア文化事典編集委員会(編)『オセアニア文化事典』pp.44-45, 46-47, 丸善出版.

渡部森哉. (2024). 『インカ帝国——歴史と構造』中央公論新社.

研究発表・講演

Hongo, C., J. Mitsumoto, J. Ryan, Y. Yamaguchi, A. Seike, and H. Kuze. (2024). Near-surface Analysis for Exploration of the Moat Surrounding a Keyhole-shaped Mounded Tomb Using UAV Data, *AGU (American Geophysical Union) Fall meeting 2024*, Walter E. Washington Convention Center, Washington, D.C., 2024/12/9.

Tanahashi, S., N. Fukayama, and T. Yamaguchi. (2024). Surviving environmental crises: Meteorological disasters and life strategies in the enduring Pukapuka Atoll society. Session M-GI25: Holocene Paleoenvironment, Paleoclimate, and Paleohazards in the Pacific Islands. *Japan Geoscience Union Meeting 2024*, Makuhari Messe, Chiba, Japan, 2024/5/28.

Yamaguchi, T. and H. Yamano. (2024). Prehistoric settlement of a remote atoll, Pukapuka, and tropical cyclones. *Japan Geoscience Union Meeting 2024*, Makuhari Messe, Chiba,

Japan, 2024/5/28.

Watanabe, S. (2024). Una introducción a la arqueología andina. *Arqueología de América II, Carrera de Arqueología, Universidad Veracruzana en Xalapa*, online, 2024/5/20.

Watanabe, S. (2024). Chimú y Cajamarca: una perspectiva desde el río Jequetepeque. *Segunda Mesa Redonda de Trujillo: Nuevas perspectivas en la cronología, organización y expansión del Imperio Chimú*, Trujillo, 2024/8/3.

Watanabe, S., Brenda Thalía García Vásquez, and Juan Carlos Ugaz Moro. (2024). Tercera temporada de excavaciones en el sitio Terlén-La Bomba, valle medio de Jequetepeque. *XI Congreso Nacional de Arqueología*, Lambayeque, 2024/11/08.

大太瑛吉・山口徹. (2025). 「プカプカ環礁におけるタロイモ天水田周辺の植生史研究」第42回日本オセアニア学会研究大会, 青森, 2025/3/24.

小林誠. (2025). 「ココナツからキャッサバへ——フィジー・キオア島での食の変化を土地の所有と利用から読み解く」学術変革領域研究(A)マテリアマインド: 物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/11.

小林誠. (2025). 「ココヤシを植えたあとで——フィジー・キオア島における土地の所有と利用」海域アジア・オセアニア研究プロジェクト(MAPS)シンポジウム『食・モノ・環境』, 東京都立大学, 2025/2/1.

荘司一步. (2024). 「先史アンデスにおけるモニュメントのはじまりを問い直す: ペルー北海岸の事例から」アンデス文明研究会6月定例講座, 東京外国語大学本郷サテライト, 2024/6/15.

荘司一步. (2024). 「文化財を創り出す: 考古学実践からみた文化遺産における経験と記憶」第34回『生きる文化遺産』研究会, オンライン, 2024/8/3.

荘司一步. (2025). 「環境と人のインタラクションから初期モニュメントの生成過程を探る: ペルー北部中央海岸のプラヤ・クレブラス遺跡」学術変革領域研究(A)マテリアマインド: 物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/12.

鶴見英成・荻谷愛彦. (2025). 「ペルー北部・ボルボリン遺跡で発見された土石流・落石防壁のための石垣」学術変革領域研究(A)マテリアマインド: 物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/12.

深山直子. (2024). 「環礁社会の『拡張』に関する予備的検討——クック諸島・プカプカ環礁の災害復興にみる

- 移民コミュニティの機能」日本文化人類学会第58回研究大会, 北海道大学, 2024/6/16.
- 深山直子. (2024). 「アオテアロア・ニュージーランドの先住民族マオリと博物館」国立アイヌ民族博物館×北海道大学アイヌ・先住民研究センター共催シンポジウム「ニュージーランド国立博物館テ・パパ・トンガレワの現在——先住民族と博物館の関係を考える」, 北海道大学, 2024/10/26.
- 深山直子. (2025). 「脆弱な環境を生きる——クック諸島プカプカ環礁における資源の利用と管理」科研A『太平洋戦争における戦跡のもつ効力と記憶の継承に関する人類学的研究』(代表: 風間計博) 研究会, 2025/3/1.
- 深山直子. (2025) 「『生きている』ワイタング条約——現代NZにおける条約原則法案をめぐる議論を中心に」第42回日本オセアニア学会研究大会, 青森県, 2025/3/25.
- 本郷千春・光本順・ライアン ジョセフ・清家章・山口雄治・久世宏明. (2024). 「UAVデータによる前方後円墳の周濠探査」日本リモートセンシング学会第76回学術講演会, 海洋研究開発機構 (JAMSTEC), 横浜, 2024/6/5.
- 光本順. (2024). 「ドローン測量で探る鳥取上高塚古墳」赤磐市史跡ミニシンポジウム「検証! 鳥取上高塚は前方後円墳なのか」, 岡山, 2024/8/3.
- 光本順・ライアン ジョセフ・山口雄治・清家章. (2024). 「UAV-LiDAR測量に基づく岡山市造山古墳東丘陵の遺跡分布調査」日本文化財科学会第41回大会, 東京, 2024/7/27.
- 光本順. (2024). 「弥生時代における家形土器の展開——岡山市雲山鳥打墳丘墓群の事例をもとに——」日本考古学協会第90回総会, 千葉, 2024/5/26.
- 山口徹. (2025). 「凝集するアトール景観」科研A『太平洋戦争における戦跡のもつ効力と記憶の継承に関する人類学的研究』(代表: 風間計博) 研究会, 2025/3/1.
- 山口徹. (2025). 「セッション3 (A02班): 考古学、地球科学と出会う!」学術変革領域研究 (A) マテリアマインド: 物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/12.
- 山口徹, 他. (2025). 「Research Showcaseが目指すもの」慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート (KGRI) 主催『学問の社会実装を目指して』, 2025/3/3.
- 山口徹・山野博哉. (2025). 「リモート環礁プカプカの先史人間居住と熱帯サイクロン」学術変革領域研究 (A) マテリアマインド: 物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/12.
- 山野博哉・山口徹. (2025). 「完新世における北部クック諸島プカプカ環礁の環境・地形形成史」学術変革領域研究 (A) マテリアマインド: 物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/11.
- 山野博哉・山口徹. (2025). 「北部クック諸島プカプカ環礁における完新世海面変動と地形形成」日本地理学会2025年春季学術大会, 東京, 2025/3/19.
- 渡部森哉. (2024). 「ペルーでの発掘調査」名古屋中ロウタークラブ, 名古屋観光ホテル, 2024/4/8.
- 渡部森哉. (2024). 「アメリカ大陸の古代文明」南山大学ラテンアメリカ研究センター講演会, 南山大学, 2024/4/9.
- 渡部森哉. (2024). 「古代アンデスの自然と人間」2024年度南山学会シンポジウム, 南山大学, 2024/10/30.
- 渡部森哉. (2024). 「ペルー北部高地におけるワリ帝国期の社会動態——テルレン=ラ・ボンバ遺跡第三次発掘調査出土遺物分析概報——」古代アメリカ学会第29回研究大会, 慶應義塾大学日吉キャンパス, 2024/12/7.
- 渡部森哉. (2025). 「古代アンデスにおける大規模セトルメントの特徴」学術変革領域研究 (A) マテリアマインド: 物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/11.
- 渡部森哉. (2024). 「古代アンデスの建築」立教大学ラテンアメリカ研究所創立60周年記念連続公開講演会, 立教大学池袋キャンパス, 2024/12/14.

アウトリーチ他

- Shoji, K. (2025). [ワークショップ] PLAYA CULEBRAS: El Centro Ceremonial Olvidado. Talleres comunitarios en municipalidad de Huarmey, Huarmey/Peru, 2024/9/27.
- 鈴木茂之. (2025). [講演] 「造山古墳の石材—石を鑑定するヒント—」第12期造山古墳ボランティアガイド養成講座, 岡山市立高松公民館, 2025/2/9.
- 深山直子. (2024). 極リモート環礁研究: JSPS科研費基盤A. <https://atollstudy.labby.jp/>
- 深山直子. (2024). [取材記事] 「国内法整備—各国で」(「先住権—法的根拠を否定」内), 北海道新聞, 2024/4/19, 3面.
- 深山直子. (2024). [取材放送] 「ニュージーランド議

- 会『ハカ』で抗議国の現状と課題とは？」テレビ朝日「グッド！モーニング」2024/11/24放送。
- 光本順. (2024). [講演]「UAV-LiDARで描く岡山の古墳」地盤工学会中国支部岡山地域セミナー, 岡山, 2024/11/11.
- 光本順. (2024). [講演]「ドローン測量で描く岡山の古墳」第37回RIDCマンスリー研究セミナー, 岡山, 2024/9/18.
- 山口徹. (2024). フィールドサイエンスで危機を生き抜く環礁社会に学ぶ. 独立行政法人日本学術振興会「科研費研究成果トピックス」. https://topics.jsps.go.jp/Opac/LpSxvk1jrG98S_8z0LP756gxi5e/2oD18q7o25iIKpTf_cUIV2yM-Og/description.html
- 渡部森哉. (2024). 【大発見】ゲームしながらインカ帝国やアンデス文明について学ぼう【ゲームさんぼ／Unknown 9: Awakening】, ライブドアニュース, ライブドア, 2024/11/1配信, <https://www.youtube.com/watch?v=FtmMR5k2jS0>
- 渡部森哉. (2024). 【ゲームさんぼ】実際の遺跡調査でも「謎解き」要素はある？考古学者とゲームの遺跡を見てみた【Unknown 9: Awakening】, ライブドアニュース, ライブドア, 2024/11/9配信, <https://www.youtube.com/watch?v=8wotwKPJW6Y>
- 渡部森哉. (2024). 「自著紹介『インカ帝国——歴史と構造』」『古代アメリカ学会会報』49, pp.19-20.
- 渡部森哉. (2024). 「巻頭言」『南山大学人類学研究所通信』24 [2023年度版], p. 2.
- 葉袋摩耶 (写真・文), 渡部森哉 (協力). (2025). 「新大陸の酒のルーツ」『ニュートン』45(3) p.37.

B01 班：民族誌研究による認知世界の拡張メカニズムの解明（行動と制度班）

論文

- 藤原拓・野村洋平・日高平・原田英典・中尾世治・外丸裕司・足立真佐雄・井上和仁. (2024). 「都市代謝系と沿岸生態系が融合した循環型エネルギー・食料生産システムの提案」『環境衛生工学研究』38(3), pp.147-149.
- 長井謙治. (2025). 「考古学における実験とは？」『本郷』176, pp.22-24.
- 田中佑実. (2025). 「サーミ工芸duodjiの現状—白樺のこぶから作られるカップに着目して」『北方人文研究』(18), pp.91-111.

書籍

- Tsukuda, A. (2025). Revisiting the Distinction between Wild and Domestic: The Relationship between Herders and Camelids in the Central Andean Highlands of Peru. In F. Stammer & H. Takakura (Eds.), *The Benefits of the Cold and Domestication: A New Understanding of Human-Animal Partnerships for Thriving in Extreme Environments*, (ch. 11). Routledge.
- 小谷真吾. (2024). 「島における動物の家畜化」, 「焼かない焼畑」, 「性別選好 (パプアニューギニア)」 オセアニア文化事典編集委員会 (編) 『オセアニア文化事典』 pp.140-141, 142-143, 190-191, 丸善出版.
- 山口未花子・石倉敏明・盛口満編著 (編). (2024). 『<動物をえがく> 人類学：人はなぜ動物にひかれるのか』 岩波書店.
- 大西秀之. (2025). 「異集団接触にともなうニッチ喪失—和人社会によるアイヌ民族支配を事例として」 西秋良宏・野林厚志 (編) 『パレオアジア新人文化の形成：考古学・文化人類学からのアプローチ』 pp.351-371, 新泉社.
- 大西秀之. (2025). 「同化政策の果てに一龍の山の麓に佇む廃屋の追憶」 生態人類学会 (編) 『ザ・フィールドワーク：129人のおどろき・とまどい・よろこびから広がる世界』 pp.210-211, 京都大学学術出版.
- 近藤宏. (2025). 「逃走が開く翻訳の可能性——コロンビア国内避難先住民の移動とその政治」 佐川徹・岡野英之・大澤隆将・池谷和信 (編) 『その空間を統治するのはだれか：フロンティア空間の人類学』 cp.13, ナカニシヤ出版.

長井謙治. (2025). 『石器づくりで何がわかるか—実験考古学教本』 吉川弘文館.

研究発表・講演

- Kondo, H. (2024). La movilidad de los desplazados indígenas y su potencia política en Colombia. *LASA 2024 Bogotá, BOGOTÁ, COLOMBIA & VIRTUAL*, 2024/6/13.
- Kondo, Y., N. Benkari, K. Hayashi, H. Ōnishi, Y. Kondo, M. Koshihara, N. Matsumoto, K. Yamao, Y. Takubo, and T. Kuronuma. (2024). Architectural and anthropological approaches to living heritage management in a port town of Oman. *International Conference on Socio-Ecological Practice Research 2024*, Bizkaia Aretoa, University of the Basque Country (UPV/EHU), 2024/10/19.
- Kondo, Y., H. Ōnishi, Y. Iwamoto, U. Ikeuchi, and K. Nakashima. (2024). Interculturality in two Japanese large-scale interdisciplinary projects on modern human dispersal. *IDT Conference 2024*, Utrecht, Netherlands, 2024/11/5.
- Nakao, S. (2024). Social Networks for SPLASH. *SPLASH Kick-Off Symposium*, 2024/9/24.
- Nakao, S. (2025). On the dissolution of Haute Volta in 1932. Kick-off meeting on the JSPS project “Globalizing the Study on West African Financial, Colonial, and Socio-Economic History in Japan: Overcoming divides through Knowledge Transfers and Dialogues”, 2025/1/13.
- Odani, S. (2025). Mortality and Fertility Changes in Orang Asli Community Analyzed from Social Factors. *Workshop in Southeast Asian Societies*, Monash University Malaya, Malaysia, 2025/3/10.
- Ōnishi, H. (2024). Reconstruction of the Ecocultural Living Space by Ainu Communities: The Iwor Regeneration Project as a Case Study. *Linguistic prehistory and ecology in the Northern Pacific Rim: Releasing the Ecological Knowledge from Language*, Max Planck Institute of Geoanthropology, Volkshaus, Germany, 2024/8/28.
- Tanaka, Y. (2024). From a Handicraft to the Forest in Finland. *Arctic Research Center Monthly Seminar*, 北極域研究センター, 2024/7/26.
- 大西秀之. (2024). 「いかに文明を語りうるか：人類学と考古学の新たな共同の可能性」 近江貝塚研究会第368回例会, 滋賀県立埋蔵文化財センター, 2024/7/13.

- 大西秀之. (2025). 「土地にまつわる記憶：奄美群島の儀礼をめぐる景観史」 海域アジア・オセアニア研究プロジェクト全体会議, 東京都立大学, 2025/2/1.
- 大西秀之. (2025). 「文化をめぐる諸問題：文化に対して、文化を用い、文化を語る」 学術改変領域研究 (A) マテリアマインド：物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/12.
- 小谷真吾・笹本美和. (2025). 「リゾームのモノ化に向けて—ニューギニア移動農耕民およびマレーシア狩猟採集民におけるマテリアマインド」 学術改変領域研究 (A) マテリアマインド：物心共創人類史学の構築第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/11.
- 片岡良美・中尾世治. (2024). 「学際的な共同研究の経験はどのように受け止められているのか」 科学技術社会論学会第23回年次研究大会, 東京大学本郷キャンパス, 2024/12/1.
- 近藤宏. (2025). 「人類学的諸理論における「二重化」について」 学術改変領域研究 (A) マテリアマインド：物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/11.
- 相馬拓也. (2025). 「シルクロードの農牧獵の伝統知で迫るモノとココロの共創エスノグラフィ」 学術改変領域研究 (A) マテリアマインド：物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/11.
- 田中佑実. (2024). 「樹木と人の生死の共有：フィンランドの民俗資料を事例に」 第58回日本文化人類学会日本文化人類学会研究大会, 北海道大学札幌キャンパス, 2024/6/16.
- 田中佑実. (2024). 「ものづくりにみる樹木と人—フィンランドの手工芸「ククサ」を題材に—」 第23回日本国際文化学会全国大会, 東洋大学白山キャンパス, 2024/7/13.
- 田中佑実. (2025). 「フィンランドの森と人々」 北海道フィンランド協会, 札幌エルプラザ, 2025/3/29.
- 田中佑実. (2025). 「ものづくりと対話の場づくり」 学術改変領域研究 (A) マテリアマインド：物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/11.
- 長井謙治. (2025). 「概要説明：身体動作の解析からマテリアマインドにいかにか迫れるか？」 学術改変領域研究 (A) マテリアマインド：物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/11.
- 長井謙治. (2025). 「石器づくりの身体を科学する—実験考古学的アプローチ」 学術改変領域研究 (A) マテリアマインド：物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/11.
- 中尾世治. (2024). 「国家による周縁 (margin) と差益 (marginal gains) の生産—20世紀初頭のオート・ヴォルタの英領国境付近におけるタカラガイの運動について」 日本文化人類学会第58回研究大会, 北海道大学札幌キャンパス, 2024/6/15.
- 中尾世治. (2024). 「歴史叙述の伝統の出会いとしての「アフリカ史研究」 第4回「アフリカの人びとはいかに『アフリカ史』を語ってきたか」 研究会, 2024/9/28.
- 中尾世治. (2024). 「ヴォルタ川流域のムスリムのいわゆる「平和主義」 シンポジウム「西アフリカにおける人びとの暮らしの中における宗教性と「政治」・「社会」, 稲盛財団記念館3階, 2024/11/09.
- 中尾世治・小田淳一. (2024). 「西アフリカ・ヴォルタ川流域のウラマーのイスナードについての予備的考察」 人工知能学会第2種研究会ことば工学研究会, 2024/9/1.
- 中尾世治. (2025). 「モノを介した思考：オゴテメリとグリオールによる神話の釈義から」 学術改変領域研究 (A) マテリアマインド：物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/11.
- 中尾世治. (2025). 「「汚さ」の感覚と文化：文化人類学の視点から」 シンポジウム「下水の道を極める—破—」, 土木学会講堂, 2025/1/29.
- 中尾世治. (2025). 「「1958年神話」の解体：戦前・戦後初期の日本におけるアフリカ研究史」 植民地期西アフリカ政治経済史研究への学際的アプローチ第3回研究会, 2025/2/19.
- 中尾世治. (2025). 「アフリカの歴史叙述—史学史研究の問題系」 第6回「アフリカの人びとはいかに『アフリカ史』を語ってきたか」 研究会, 2025/3/9.
- 中尾世治. (2025). 「領域統治の制度的基盤：オート・ヴォルタ植民地の財政と統治」 科研費共同研究「アフリカ国家論の再構築」 研究会, 2025/3/15.
- 平川ひろみ・中園聡. (2024). 「土器タタキ痕の可視化による製作者の身体動作」 日本情報考古学会第50回大会, 高千穂大学杉並キャンパス, 2024/3/29-3/30.
- 平川ひろみ・中園聡. (2025). 「土器製作者の身体と動作—経緯と視角—」 学術改変領域研究 (A) マテリアマインド：物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/11.

山口未花子. (2024). 「動物にうたうた—ユーコン先住民と動物をつなぐ生成変化としての音」日本文化人類学会第58回研究大会, 北海道大学札幌キャンパス, 2024/6/16.

山口未花子. (2025). 「西表島におけるイノシシ畏猟を対象としたキネシオロジー研究の可能性」学術改変領域研究 (A) マテリアマインド：物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/11.

B02 班：認知科学と人類史学との協働による 創造的人工物生成過程の解明（アートと感情班）

論文

- Kondo, H., S. Kondoh, and S. Fujii. (2024). Perceived Vibrato and the Singing Power Ratio Explain Overall Evaluations in Opera Singing. *PsyArXiv*. https://osf.io/preprints/psyarxiv/sr8ck_v1
- Tamura, R., Y. Ujihara, M. Yamamoto, S. Matsushima, H. Kasahara, D. Nasukawa, K. Hayashi, K. Yamada, M. Tanaka, and K. Toda. (2024). Disruption of Ultrasonic Vocalization with Systemic Administration of the Non-Competitive N-Methyl-D-Aspartate Receptor Antagonist MK-801 in Adult Male Mice. *BioRxiv*, 2024.08.25.609588. <https://doi.org/10.1101/2024.08.25.609588>
- Watanabe, A., S. Kondoh, T. Samma, and S. Fujii. (2024). Enhanced subjective performance achievement in wind instrument playing through positive memory recall: Effects of sympathetic activation and emotional valence. *bioRxiv*. <https://doi.org/10.1101/2024.12.12.628097>
- Zhou, Y. and H. Kawabata. (2025). Nostalgia Core: The Cultural Affective Experience of the Sense of "In-Between". *Human Arenas*, 1-18.
- Zhou, Y., M. Nishimura, and H. Kawabata. (2025). Gaze behavior when looking at paintings may predict autistic traits. *PsyCh Journal*, 14, 267-276.
- 鴨下真由・吉田晃章・今西規・山花京子・松前ひろみ. (2025). 「東海大学文明研究所所蔵のコレクションの三次元計測とそのデジタルアーカイブ化の試み」, 『文明』 34, pp.27-38, 東海大学文明研究所.

書籍

齋藤亜矢. (2025). 「ヒトはなぜ動物を描くのか—人類進化とアートの起源」 山口未花子・石倉敏明・盛口満 (編著). 『く動物をえがく』 人類学—人はなぜ動物にひかれるのか』 pp.153-169, 岩波書店.

研究発表・講演

- Fujii, T., and Tanaka, M. (2024). Amygdala lesions alter the social approach of juvenile zebra finches during social learning. *54th SfN annual meeting*, Chicago, 2024/10/8.
- Fukatsu, H., S. Kondoh, and Fujii, S. (2024). Finger-bowing Skill in Violin Playing: A Pilot Motion-Analysis Study of a Novice and Expert Using a High-Speed Camera. *The Neurosciences and Music – VIII: Wiring, re-wiring, and well-being*. Helsinki, Finland, 2024/6/13-16.
- Osuka, Y. and M. Tanaka. (2025). Operant conditioning of keypress for auditory rewards in zebra finches. *Society for Tokyo Young Psychologists*, Tokyo, 2025/3/8.
- Saiki, J. (2024). Beyond WEIRD: A computational model analysis of cultural variability in visual search. *International Conference on Brain Science and Medical Technology*, Shenzhen, China, 2024/7/5.
- Sakakibara Y., M. Mori, and S. Fujii. (2024). Music-evoked nostalgia without prior listening experience: The role of knowledge and autobiographical memories. *Association for the Scientific Study of Consciousness (ASSC27)*. Tokyo, Japan, 2025/7/2-5.
- Tanaka, M. (2024). Exploring cultural learning in songbirds and humans. *2024 Birdsong satellite*, Chicago, 2024/10/4.
- Ueda, Y., H. Sun, and J. Saiki. (2024). Cultural Variations in Moral Dilemma Judgment through Multinomial Processing Tree Model. *33rd International Congress of Psychology*. 2024/7/22.
- Ueda, Y., C.-C. Tsai, H. Takebayashi, J. Saiki, and S.-L. Yeh. (2024). Cross-Cultural Variations in Visual Search: Exploring Attention Deployment Strategies and Novel Priming on Search Asymmetry. *Vision Sciences Society 24th Annual Meeting*, St. Pete Beach, USA. 2024/5/21
- Watanabe, A., T. Samma, S. Kondoh, and S. Fujii. (2024). Effects of recalling autobiographical music performance memories on performance self-evaluation and heart rate variability. *The Neurosciences and Music – VIII: Wiring, re-wiring, and well-being*, Helsinki, Finland, 2024/6/13-16.
- 奥田花菜・周一禎・川畑秀明. (2025). 「対象の評価の仕方が評価者の気分や自尊感情に与える影響」第20回感性工学会春季大会, 京都工芸繊維大学, 2025/3/5.
- 川畑秀明. (2025). 「アートと感情の関係に迫る実験的研究」, 学術変革領域研究 (A) マテリアマインド: 物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/11.
- 川畑秀明. (2025). 「土偶画像評価データとメモラビリティ」『セッション2 マテリアマインドとしての土

偶』学術変革領域研究 (A) マテリアマインド：物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/12.

川畑秀明. (2025). 「芸術認知研究における基礎と応用—美を超えたアート研究の展開」 「注意と認知」 第23回研究会, サイプレスホテル名古屋駅前, 2025/3/9.

齋木潤. (2025). 「土偶のmemorability」 『セッション2 マテリアマインドとしての土偶』学術変革領域研究 (A) マテリアマインド：物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/12.

齋藤亜矢. (2024). 「芸術するところの起源」 楽園学会第3回大会パネルディスカッション「自然と美の認知」, 京都, 2024/7/20.

齋藤亜矢. (2024). 「ヒトはなぜ絵を描くのか：表現の原点について考える」 日本美術教育連合「造形・美術フォーラム2024」, オンライン, 2024/9/1.

齋藤亜矢・小町谷圭. (2025). 「洞窟に絵を描く：描画検証実験のためのVRコンテンツの作成」 学術変革領域研究 (A) マテリアマインド：物心共創人類史学の構築第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/11-1/12.

徐静純・上田祥行・大塚幸生・津田裕之・齋木潤. (2025). 「感情複雑性が視覚的美的選好に及ぼす影響の探求」 学術変革領域研究 (A) マテリアマインド：物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/11.

徐静純・齋木潤. (2024). 「美的判断におけるサブリミナル感情喚起効果の探求 (Exploring Subliminal Emotional Arousal Effects in Aesthetic Judgments)」 認知心理学会第22回大会, 帝京大学, 2024/6/1.

藤本悠花・渡邊愛子・藤井進也・川畑秀明. (2025). 「二者間の楽器演奏時における生理測定及び運動測定に関する予備的研究」 第20回感性工学会春季大会, 京都工芸繊維大学, 2025/3/5.

前川朋也・上田祥行・大塚幸生・津田裕之・齋木潤. (2025). 「Colexificationを用いた美的概念と感情の結びつきの語族横断的比較」 学術変革領域研究 (A) マテリアマインド：物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/11.

横瀧沙耶奈・川畑秀明. (2025). 「創造的表現は気分を変えるか？—塗り絵と作画における視線運動と自己評価」 第20回感性工学会春季大会, 京都工芸繊維大学, 2025/3/5.

吉田晃章・真世土マウ・亀井岳・広瀬浩二郎・齋藤亜矢・

鶴見英成・森下矢須之. (2025). 「古代アンデス笛吹きボトルの音と造形」 学術変革領域研究 (A) マテリアマインド：物心共創人類史学の構築 第2回全体会議, 岡山国際交流センター, 2025/1/11.

アウトリーチ他

Saiki, J. (2025). Cultural variability in simple visual search: Empirical findings and a computational model account. *Invited talk at Department of Psychology, Kansas State University, Manhattan, KS., USA, 2025/3/26.*

五十嵐大介・石倉敏明・大石侑香・大小島真木・小田隆・ケイトリン・コーカー・鴻池朋子・齋藤亜矢・管啓次郎・菅原和孝・竹川大介・長坂有希・永沢碧衣・西澤真樹子・丹羽朋子・根本裕子・長谷川朋広・盛口満・山口未花子・吉田ゆか子. (2025) <PART OF THE ANIMAL 動物と人間のあいだ>. (公財) せたがや文化財団 生活工房ギャラリー. 2025/1/21 ~ 4/20.

川畑秀明. (2024). 「アートが心にもたらす効果」 クリエイティブシティ・ヨコハマ 20th Anniversary フォーラム, 横浜市役所, 2024/5/23.

川畑秀明. (2024). 「アートを鑑賞する心と脳の働き」 早稲田大学人文研「行動・社会・文化に関する多角的アプローチ」 主催心理学セミナーシリーズ, 早稲田大学, 2024/10/

川畑秀明. (2024). 「アートとともに考える心と脳のウェルビーイング」 大阪高島屋つなぐマーケット特別講演, 大阪高島屋, 2024/10/12.

川畑秀明・吉田晃子. (2024). 「アート脳研究者×芸術新潮編集長から見る産業とアート」 Art Live Tokyo：アートとあらゆる業界の交差点をつくる, 東京都有楽町TiB, 2024/11/21.

川畑秀明. (2025). 「アートはウェルビーイングを与えうるか？—鑑賞者研究から考える」 学術変革領域研究 (A) マテリアマインド：物心共創人類史学の構築・三田哲学会・慶應義塾大学未来共生デザインセンター 共催シンポジウム『なぜアートに魅了されるのか』 慶應義塾大学, 2025/1/12.

齋藤亜矢. (2024). 「現代のことば：モネの目」 京都新聞, 2024/5/23, 夕刊.

齋藤亜矢. (2024). 「現代のことば：アフォーダンスとアート」 京都新聞, 2024/7/30, 夕刊.

齋藤亜矢. (2024). 「現代のことば：正義のみかた」 京都新聞, 2024/10/4, 夕刊.

齋藤亜矢. (2024). 「現代のことば：嫌と悪」 京都新聞,

2024/12/11, 夕刊.

齋藤亜矢. (2024). 「見えない時間」(展覧会レビュー〈オラファー・エリアソン展: 相互に繋がらあう瞬間が協和する周期〉)『月刊アートコレクターズ』(2024年5月号) 182, pp. 116-117. 生活の友社. ISBN: 4910113990548

齋藤亜矢. (2024). 「「よむ」ことの不思議」(展覧会レビュー〈デコーディング・ワンダー〉)『月刊アートコレクターズ』(2024年8月号) 185, pp. 86-87. 生活の友社.

齋藤亜矢. (2024). 「地図とメディスン」(展覧会レビュー〈鴻池朋子展 メディスン・インフラ〉).『月刊アートコレクターズ』(2024年11月号) 188, pp. 134-135, 生活の友社.

齋藤亜矢. (2024). 「ヒトはどうして絵を描くの?」(インタビュー記事)『月刊たくさんのふしぎ』(2025年2月号) 480: ふしぎ新聞6-7. 福音館.

齋藤亜矢. (2025). 「現代のことば: 意味を手放す」京都新聞, 2025/2/25, 夕刊.

齋藤亜矢. (2025). 「水の満ちた瓶」(展覧会レビュー〈内藤礼 生まれておいで 生きておいで〉)『月刊アートコレクターズ』(2025年2月号) 191, pp. 132-133, 生活の友社.

齋藤亜矢. (2025). 「ヒトはなぜ動物にひかれるのか」『モンキー』9(4), pp. 98-99.

齋藤亜矢. (2024). 京大式AGORA 「京都大学×積水ハウス コドモイドコロ包括連携: 感性豊かな子どもが育つには?」講演およびディスカッション, 京都大学オープンイノベーション機構, 2024/6/7.

齋藤亜矢. (2024). 「〈人類〉について考えてみる」哲学とアートのための12の対話2024「土曜の放課後」, 京都, 2024/9/14.

齋藤亜矢. (2024). 「表現するところの進化と発達」清流の国ぎふ文化祭 せき桐ヶ丘芸術シンポジウム「ヒトとひょうげん ～他者の「表現」を多様なスケールで捉える～」, 岐阜, 2024/10/27.

齋藤亜矢. (2024). 「描画とことば: 進化と発達の視点から」京都国際社会福祉センター K式発達検査中級講習会, 京都, 2024/11/14.

齋藤亜矢. (2024). 「人間ってなんだろう?」伊東豊雄建築塾. 東京, 2024/12/4.

齋藤亜矢・竹川大介・山口未花子. (2025). 「動物をめぐる対話1—動物を狩ること・えがくこと」〈PART OF THE ANIMAL 動物と人間のあいだ〉展覧会トークイベント, 東京, 2025/3/8.

齋藤亜矢. (2024). NHK「チョコちゃんに叱られる」おたよりコーナー解説「絵を上手に描ける方法が知りたい」. NHK総合2024/11/15放送.

田中彰吾・山本和重・篠原聡・山花京子・吉田晃章. (2025). 「アンデス・コレクションの学術的研究と公開促進」. 東海大学研究DAY, 東海大学, 2025/2/21.

吉田晃章. (2024). 古代アンデスの笛吹きボトル展示に関する講演, 横浜市歴史博物館, 「君も今日から考古学者! 横浜発掘物語2024」企画展, 2024/6/23.

吉田晃章. (2024). 企画展「君も今日から考古学者! 横浜発掘物語2024」内アンデスコーナー展示. 企画立案・設営等, 横浜市歴史博物館, 2024/3/30- 2024/6/23.

吉田晃章・齋藤亜矢・篠原聡・広瀬浩二郎・真世土マウ. (2024). 横浜市歴史博物館における「笛吹きボトル制作ワークショップ」, 2024/8/9.

吉田晃章・齋藤亜矢・亀井岳・広瀬浩二郎・真世土マウ. (2024). 科研笛吹きボトルプロジェクト大阪府立大阪北視覚支援学校における「笛吹きボトル制作ワークショップ」, 2024/10/17, 24, 2025/1/30. (計3回)

吉田晃章. (2024). 笛吹きボトルを含むアンデス文明考古遺物等の所属研究機関への受入れ(研究資料の収集・保存2件計29点), 2024/5/24, 6/22.

渡邊愛子・三摩朋弘・近藤聡太郎・藤井進也. (2024). 「自伝的演奏記憶の想起がパフォーマンス評価及び心拍変動に及ぼす影響」第18回Motor Control研究会, 大阪大学, 2024/8/22-24.

C01 班：生命・物質・文化を統合する マテリアマインド進化モデルの構築（遺伝子と文化班）

論文

- Aki, F., R. Ikeda, T. Saito, C. Regan, and M. Oka. (2024). LLM-POET: Evolving Complex Environments using Large Language Models. *GECCO*, 243-246.
- Apostolou, M., M. J. M. Sullman, J. D. Ayers, A. Błachnio, R. Choubisa, H. F. Gadelrab, T. Hill, S. Kamble, Y. Lisun, D. Manrique-Millones, R. Millones-Rivalles, Y. Ohtsubo, A. Przepiórka, B. Tekeş, G. Vera Cruz, Y. Wang, Y. Watanabe, and A. Ghorbani. (2024). Why people make friends: Evidence from 12 nations. *Personality and Individual Differences*, 229, Article 112774. <https://doi.org/10.1016/j.paid.2024.112774>
- Apostolou, M., M. Sullman, A. Błachnio, O. Buryšek, E. Bushina, F. Calvo, W. Costello, M. Helmy, T. Hill, M. G. Karageorgiou, Y. Lisun, D. Manrique-Millones, O. Manrique-Pino, Y. Ohtsubo, A. Przepiórka, O. C. Saar, B. Tekeş, A. G. Thomas, Y. Wang, and S. Font-Mayolas. (2024). Emotional wellbeing and life satisfaction of singles and mated people across 12 nations. *Evolutionary Psychological Science*, 10(4), 352-369. <https://doi.org/10.1007/s40806-024-00416-0>
- Bretas, R., B. Tia and A. Iriki. (2024). The self - in - the - world map emerged in the primate brain as a basis for Homo sapiens abilities. *Dev Growth Differ*, 1-7.
- Brooks, J., M. Tamao, M. Ringhofer, and S. Yamamoto. (2024). Oxytocin homogenizes horse group organization. *iScience*, 27(7), 110356. <https://doi.org/10.1016/j.isci.2024.110356>
- Brooks, J., K. van Heijst, A. Epping, S. H. Lee, A. Niksarli, A. Pope, Z. Clay, M. Kret, J. Tagliabue, and S. Yamamoto. (2024) Increased alertness and moderate ingroup cohesion in bonobos' response to outgroup cues. *PLOS ONE*, 19(8), e0307975. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0307975>
- Gregory, E. S., Y. Y. J. Xu, T.-T. Lee, M. A. Joiner, A. Kamikouchi, M. P. Su, and D. F. Eberl. (2025). The voltage-gated potassium channel Shal (Kv4) contributes to active hearing in *Drosophila*. *eNeuro*, 12(1). <https://doi.org/10.1523/ENEURO.0083-24.2024>
- Hattori, M., K. Kinoshita, A. Saito, and S. Yamamoto. (2024). Exogenous oxytocin increases gaze to humans in male cats. *Scientific Reports*, 14(1), 8953. <https://doi.org/10.1038/s41598-024-59161-w>
- Herbrich M., E. Sands, S. Ishizuka, Y. Kaigaishi, S. Yamamoto, and C. Sueur. (2025). Influence of ecological and social factors on huddling behaviour and cluster organisation in Japanese macaques (*Macaca fuscata*). *Primates*, 66, 207-219. <https://doi.org/10.1007/s10329-024-01178-w>
- Hirano, H., and K. Ishii. (2024). Exploring emotion regulation and coping across cultures: Implications for happiness and loneliness. *Asian Journal of Social Psychology*, 27, 613-625.
- Hirano, H., and K. Ishii. (2024). Childhood adversity and health: The mediating roles of emotional expression and general trust. *Frontiers in Psychology*, 15, 1493421.
- Hirano, H., K. Ishii, and M. Sato. (2025). Exploring the Influence of Self-Esteem and Self-Compassion on Daily Emotional Experience: Insights from Experience Sampling Method. *Personality and Individual Differences*, 240, 113140.
- Imoto, K., Y. Ishikawa, Y. Aso, J. Funke, R. Tanaka, and A. Kamikouchi. (2024). Neural-circuit basis of song preference learning in fruit flies. *iScience*, 27(7), 110266. <https://doi.org/10.1016/j.isci.2024.110266>
- Iriki, A. and S. Tanaka. (2024). Potential of the Path Integral and quantum computing for the study of humanities: An underlying principle of human evolution and the function of consciousness. *Global Perspectives*, 5, 115651.
- Kaigaishi, Y. and S. Yamamoto. (2024). Higher eigenvector centrality in grooming network is linked to better inhibitory control task performance but not other cognitive tasks in free-ranging Japanese macaques. *Scientific Reports*, 14, 26804. <https://doi.org/10.1038/s41598-024-77912-7>
- Kamikouchi, A., and X. Li. (2024). Nature and nurture in fruit fly hearing. *Frontiers in Neural Circuits*, 18(1503438). <https://doi.org/10.3389/fncir.2024.1503438>
- Kaneko, S., K. Miyoshi, K. Tomuro, M. Terauchi, R. Tanaka, S. Kondo, N. Tani, K.-I. Ishiguro, A. Toyoda, A. Kamikouchi, H. Noguchi, S. Iwasaki, and K. Saito. (2024). Mett11-dependent m7G tRNA modification is essential for maintaining spermatogenesis and fertility in *Drosophila melanogaster*.

- Nature Communications*, 15(1), 8147. <https://doi.org/10.1038/s41467-024-52389-0>
- Kawarai, S., Y. Sakai, A. Iriki and Y. Yamazaki. (2024). Gastric emphysema and pneumatosis intestinalis in common marmosets with duodenal dilation syndrome. *BMC Vet Res*, 20, 223.
- Kometani, A., and Y. Ohtsubo. (2024). Effects of accelerated reproductive timing in response to childhood adversity on lifetime reproductive success in modern environments. *Evolutionary Psychological Science*, 10(3), 240-249. <https://doi.org/10.1007/s40806-024-00403-5>
- Konno, A., M. Inoue-Murayama, K. Mogi, S. Kuze-Arata, and S. Yabuta. (2024). Prediction of Successful Training Outcomes for Drug Detection Dogs Using Subjective Ratings and Behavioral Test Measures: A Case Study in Japan Customs. *Applied Animal Behaviour Science*, 283: 106501. doi.org/10.1016/j.applanim.2024.106501
- Li, X., H. Ishimoto, and A. Kamikouchi. (2018). Auditory experience controls the maturation of song discrimination and sexual response in *Drosophila*. *eLife*, 7, e34348. <https://doi.org/10.7554/eLife.34348>
- Lin, C., A. Muramatsu, and S. Yamamoto. (2024). Audience presence influences cognitive task performance in chimpanzees. *iScience*, 27(11), 111191. <https://doi.org/10.1016/j.isci.2024.111191>
- Loh, Y. M., M. P. Su, K. G. Haruni, and A. Kamikouchi. (2024). MACSFeD—a database of mosquito acoustic communication and swarming features. *Database*, 2024, baae086. <https://doi.org/10.1093/database/baae086>
- Loh, Y. M., Y. Y. J. Xu, T.-T. Lee, T. S. Ohashi, Y. D. Zhang, D. F. Eberl, M. P. Su, and A. Kamikouchi. (2024). Differences in male *Aedes aegypti* and *Aedes albopictus* hearing systems facilitate recognition of conspecific female flight tones. *iScience*, 27(7), 110264. <https://doi.org/10.1016/j.isci.2024.110264>
- Ohtsubo, Y., and A. Smith. (2024). Emotions and reconciliation. In T. K. Shackelford & L. Al-Shawaf (Eds.), *The Oxford handbook of evolution and the emotions*, pp.717-736, Oxford University Press. <https://doi.org/10.1093/oxfordhb/9780197544754.013.43>
- Onishi E., J. Brooks, S. Inoue, and S. Yamamoto. (2025). Socially contagious urination in chimpanzees. *Current Biology*, 35(2), R58-R59. <https://doi.org/10.1016/j.cub.2024.11.052> Press release
- Paulet J., A. Molina, B. Beltzung, T. Suzumura, S. Yamamoto, and C. Sueur. (2024) Deep learning for automatic facial detection and recognition in Japanese macaques: illuminating social networks. *Primates*, 65, 265–279. <https://doi.org/10.1007/s10329-024-01137-5>
- Piao Y., J. Brooks, and S. Yamamoto. (2025) An eye-tracking study of visual attention in chimpanzees and bonobos when viewing different tool-using techniques. *Animal Cognition*, 28, 12. <https://doi.org/10.1007/s10071-025-01934-5>
- Sakamoto, R., and Y. Ohtsubo. (2025). Men's but not women's risk proneness in early adulthood is associated with lifetime reproductive success: Evidence for sexual selection in modern environments. *Evolution and Human Behavior*, 46(1), Article 106654. <https://doi.org/10.1016/j.evolhumbehav.2025.106654>
- Seki, F., T. Yurimoto, M. Kamioka, T. Inoue, Y. Komaki, A. Iriki, E. Sasaki, and Y. Yamazaki. (2025). Development of a non-invasive novel individual marmoset holder for evaluation by awake functional magnetic resonance brain imaging. *J Neurosci Meth*, in press.
- Salvador, C. E., S. I. Carlier, K. Ishii, C. T. Castillo, K. Nanakdewa, K. Savani, A. San Martin, and S. Kitayama. (2024). Expressive interdependence in Latin America: A Colombia, U.S., and Japan comparison. *Emotion*, 24, 820-835.
- Salvador, C. E., S. Idrovo Carlier, K. Ishii, C. Torres Castillo, K. Nanakdewa, F. Canale Segovia, A. San Martin, K. Savani, and S. Kitayama. (in press). Self-Enhancement in Latin America: Is It Linked to Interdependence? *Personality and Social Psychology Bulletin*.
- Sueur, C., S. Ishizuka, Y. Kaigaishi, and S. Yamamoto. (2024). The Warmth of Sarudango: Modelling the Huddling Behaviour of Japanese Macaques (*Macaca fuscata*). *Animals*, 14(23), 3468. <https://doi.org/10.3390/ani14233468>
- Takemi, M., B. Tia, A. Kosugi, E. Castagnola, A. Ansaldo, D. Ricci, L. Fadiga, J. Ushiba and A. Iriki. (2024). Posture-dependent modulation of marmoset cortical motor maps detected via rapid multichannel epidural stimulation. *Neurosci*, 560, 263-271.
- Tanaka, R., Y. Mitaka, D. Takemoto, M. P. Sato, A. Kamikouchi, and Y. Suzuki. (2024). Switching escape strategies in the parasitic ant cricket *Myrmecophilus tetramorii*. *Communications Biology*, 7(1), 1–11. <https://doi.org/10.1038/s42003-024-04888-8>

org/10.1038/s42003-024-07368-y

- Zemoto, C., Y. Matsumoto, M. Arahori, M. Inoue-Murayama. (2025). Genome-wide study suggests inheritance of personality traits in Toy Poodles and Miniature Dachshunds. *Animal Genetics*, 56(1):e13508. doi: 10.1111/age.13508.
- 齊藤拓己・岡瑞起. (2024). 「複雑化する環境との相互作用による多様な環境において適応的なロボットの構造の探索」『IPSJ Journal』 65(7), pp.1137-1149.
- 齊藤拓己・大作春輝・岡瑞起. (2024). 「身体構造がソフトロボットの行動学習に与える影響の評価」『電子情報通信学会論文誌』 J107-A(7), pp.64-73.

研究発表・講演

- Hirano, H., and K. Ishii. (2025). Perceptions of Self-Compassion and Their Associations with Happiness in Japan and the United States. Poster presented at *the 2025 meeting of Society for Personality and Social Psychology*, Denver, 2025/2/20-22.
- Iriki, A. (2024). Future of Consciousness Anticipation Workshop, Invited Panel. *GESDA (Geneva Science and Diplomacy Anticipator)*, Geneva, Switzerland, 2024/6/20; on-line.
- Iriki, A. (2024). Potential of Quantum-like Modeling in Human Evolution and Function of Consciousness, Organizer and Invited Speaker. *CIFAR (Canadian Institute for Advanced Research) -JST (Japan Science and Technology Agency) joint symposium on consciousness*, Tokyo, Japan, 2024/7/1-2.
- Iriki, A. (2024). Biology & Life sciences & Ecology, Organizer and Invited Speaker. *JST-JSPS-CNRS Collaborative Celebrative Event of the 50th Anniversary of France-Japan Scientific Cooperation: Building up the future together*, Tokyo, Japan, 2024/10/9.
- Iriki, A. (2024). Functions of Language and Consciousness: An Underlying Principle of Human Evolution, Plenary Lecturer. *International Academy of Aphasia 62nd Annual Meeting*, Nara, Japan, 2024/10/18-20.
- Iriki, A. (2024). Audacity in Science, Invited Panel. *CIFAR (Canadian Institute for Advanced Research) Winter School*, Cancun, Mexico, 2024/12/18-20.
- Ishii, K., A. Osei-Tutu, T. Suo, A. Rossmair, C. Thomas, and S. Kiyayama. (2024). Cultural variations in self-enhancement: Comparing Sub-Saharan Africa, North America, and East Asia. Poster presented at *2024 APS Global Psychological Science Summit*, online, 2024/10/18.
- Ishii, K., S. Nogawa, S. Takahashi, M. Matsunaga, Y. Noguchi, H. Yamasue, and Y. Ohtsubo. (2025). A genome-wide association study for loneliness in Japanese populations. Poster presented at *the 2025 meeting of Society for Personality and Social Psychology*, Denver, 2025/2/21.
- Kamikouchi, A. (2024). Innate and experience-dependent mechanisms for song evaluation in *Drosophila*. *Asia Pacific Drosophila Neurobiology Conference (APDNC) 3*, Wako, 2024/2/27-3/1.
- Kamikouchi, A. (2024). Sexual dimorphisms in auditory function and processing in mosquitoes. *the 27th International Congress of Entomology (ICE2024 Kyoto)*, Kyoto, 2024/8/25-30.
- Kamikouchi, A. (2024). Acoustic communication in Fruit flies and Mosquitoes. *CFP SWARM2024*, Kyoto, 2024/9/18-20.
- Kamikouchi, A. (2024). Acoustic communication in fruit flies and mosquitoes. *JST-JSPS-CNRS Collaborative Celebrative Event of the 50th Anniversary of France-Japan Scientific Cooperation*, Tokyo, 2024/10/9.
- Ohtsubo, Y., Y. Miyazaki, and H. Tanaka. (2024). Signal cost suppresses dishonest reputation signalling in an indirect reciprocity context. Poster session presented at the *35th annual conference of the Human Behavior and Evolution Society*, Aarhus University, Aarhus, Denmark, 2024/5/23.
- Okamoto, Y., M. Arahori, M. Hattori, and M. Inoue-Murayama. (2024). The Secret of cat sociality: comparison of *AVPR1a* genotypes among Felid species. *PWS symposium*, Kyoto, 2024/10/30-31. (優秀発表賞受賞)
- Suo, T., S. Kitayama, C. Thomas, A. Rossmair, K. Ishii, and A. Osei-Tutu. (2025). Affect Experience, Values, and Relation to Well-being in U.S., Japan, and Kenya. Poster presented at *the 2025 meeting of Society for Personality and Social Psychology*, Denver, 2025/2/22.
- Wang, E., K. Ishii, and S. Kitayama. (2025). Forging group identity through competition: A self-promotive model of interdependence in Sub-Saharan Africa. Poster presented at *the Advances in Cultural Psychology Pre-conference of the 2025 meeting of Society for Personality and Social Psychology*, Denver, 2025/2/20.
- Yamamoto, S., and C. Lin. (2024). Empathy in chimpanzees and its possible divergence from humans. *Symposium "Building blocks of emotion sharing in primates" in the 10th European Federation for Primatology meeting*, Lausanne,

- 2024/6/6.
- Yamamoto, S. (2024). Investigation on the Evolution of Humanity Through Comparative Animal Research. *Kyoto University Summer School*, Kyoto, 2024/8/6.
- Yamamoto, S. (2024). Within- and Across-group Relationship in Horses. *SWARM 2024*, Kyoto, 2024/8/6.
- Yamamoto, S. (2024). The Evolution of Humanity: An approach by Comparative Animal Research. *Stanford University Kyoto Lectures*, 2024/10/23.
- Yamamoto, S. (2024). Understanding humans through comparative studies with non-human animals. *CNRS-JSPS-JST Celebration Event for the 50th Anniversary of France-Japan Scientific Cooperation*, Tokyo, 2024/10/9.
- 石井敬子・平野寛樹・松川恵大. (2024).「幼少期の家庭環境による感情表出やwell-beingへの影響」日本心理学会第88回大会, 熊本城ホール, 2024/9/6-8.
- 大坪庸介. (2024).「進化心理学における感情と行動」(鈴木貴之(オーガナイザー)感情の科学と哲学)日本科学哲学学会第57回(2024年)大会, 関西大学千里山キャンパス, 2024/11/30.
- 大坪快・大坪庸介. (2024).「集団内のヒエラルキー構造は平和をもたらすか:シミュレーションによる検討」日本人間行動進化学会第17回大会, ポスター発表, 広島修道大学, 2024/12/7-8.
- 岡本優芽・荒堀みのり・服部円・村山美穂. (2024).「ネコ (Felis catus) のバソプレシン受容体1a遺伝子エキソン1領域の多型と行動特性の関連」日本DNA多型学会第33回学術集会, 横浜市立大学金沢八景キャンパス, 2024/11/28-29.
- 岡本優芽・荒堀みのり・服部円・村山美穂.「遺伝子からネコ科動物種の行動特性を探る」第6回動物園水族館大学シンポジウム, 名古屋, 2025/2/23.
- 岡本優芽・井上-村山美穂.「ふすまを開けるネコ (Felis catus) の特徴を探る」ヒトと動物の関係学会第31回学術大会, 東京農業大学世田谷キャンパス, 2025/3/8.
- 上川内あづさ. (2024).「聴覚を介した昆虫の求愛コミュニケーション」第74回脳の医学・生物学研究会, 名古屋, 2024/5/18.
- 上川内あづさ. (2024). Visualizing Auditory Sensory Processing in the Insect Brain, 北海道大学ニコイメーキングセンター学術講演会, 札幌, 2024/9/20.
- 川添裕太郎・大坪庸介. (2024).「若年男性のリスク傾向は身体能力の正直なシグナルか?」日本人間行動進化学会第17回大会, ポスター発表, 広島修道大学, 2024/12/7-8.
- 高橋龍・大坪庸介. (2025).「ネットワーク囚人のジレンマにおける成功者模倣戦略と満足化戦略:ネットワーク互恵性モデルの批判的検討」第4回計算社会科学大会, ポスター発表, 筑波大学東京キャンパス, 2025/2/16.
- 平野寛樹・佐藤麻綾・石井敬子. (2024).「自尊感情とセルフ・コンパッションが精神的健康に与える影響:日米における経験サンプリング法を用いた検討」日本社会心理学会第65回大会, 日本大学, オンライン, 2024/8/31-9/1.
- 山本真也. (2024).「動物をとおしてヒトを知る:比較認知行動学への招待」奈良女子大学ライフサイエンスセミナー, 奈良女子大学, 2024/10/29.
- 渡邊裕季乃・大坪庸介. (2024).「チープな協力意図シグナルの進化可能性」日本グループ・ダイナミクス学会第70回大会, ポスター発表, 立教大学新座キャンパス, 2024/8/23.
- 渡邊裕季乃・大坪庸介. (2024).「チープな協力意図シグナルの進化と模倣戦略の共存条件:シミュレーションによる検討」日本人間行動進化学会第17回大会, ポスター発表, 広島修道大学, 2024/12/7-8.
- 米谷充史・大坪庸介. (2024).「幼少期の戦争関連ストレスの経験は早い繁殖開始と関連するのか?」日本人間行動進化学会第17回大会, ポスター発表, 広島修道大学, 2024/12/7-8.

C02 班：考古・人類学データの多次元表彰とモデリングによる 文化動態の解明（表象とモデル班）

論文

Noshita, K., A. Kaneda, T. Nakagawa, K. Tamura, and H. Nakao.
(2025). The cultural transmission of Ongagawa style
pottery in the prehistoric Japan: Quantitative analysis on
3D data of archaeological pottery in the early Yayoi period.
Journal of the Royal Society Interface, 22, 20240889.

中尾央. (2024). 「弥生時代中期北部九州大型甕棺の楕円
フーリエ解析：甕棺形状の時空間動態について」『日
本考古学』 59, pp.21-39.

書籍

金田明大. (2025). 「遺跡を三次元で記録する」上野祥史,
松田睦彦（編）『3Dからみる研究：研究はどう変わる
か』 pp.32-38, 国立歴史民俗博物館.

中尾央. (2025). 「大規模三次元データの共有と解析」上
野祥史, 松田睦彦（編）『3Dからみる研究：研究はど
う変わるか』 pp.19-24, 国立歴史民俗博物館.

研究発表・講演

中尾央・金田明大・田村光平・舘内魁生・中川朋美.
(2025). 「土偶形状の複雑さと人口動態は関係する
か：考古データから Powell et al. (2009) を検証する」
HBES-J 2024, 広島修道大学, 2024/12/7.

アウトリーチ他

- ・C02班で計測した土偶データの公開・展示
- (1) 2025/1/25開催山田町埋蔵文化財企画展での3D
データ展示
- (2) 2024/10/5～6開催山田町埋蔵文化財企画展での
3Dデータ展示
- (3) 江南文化財センターのSketchfabにて3Dデータの
公開
<https://sketchfab.com/odoruhaniwa/models>
- ・研究内容取材記事：3/15 毎日新聞東京版夕刊「土
器の形を数値化したら 「遠賀川式」 拡散ルート証明
南山大など」